

進路部だより

年度末特別号

(2016-第12号)



2017. 3. 3.

宮城県岩出山高等学校 進路指導部

卒業式も過ぎ、3年生たちはそれぞれ自分の未来に向かって岩出山高校を旅立っていきました。とっかえひっかえいろんな3年生で賑わっていた進路室もすっきりと落ち着いております。3年生に遠慮して進路室に顔を出せなかった1・2年生諸君、ぜひ、この機会に進路室に遊びに来てみて下さい！

一方、残された1・2年生諸君は学年末考査も終わり、いよいよ、1つ上の学年へと進級していくことになります。

イメージできてますか？ 2年生諸君は、来年の今頃はすでに自分の進路が決まっています、岩高を卒業して自分の未来へと歩いているはずなのです！

学年末考査の答案返却も終わるとしばらく学校に来なくてよい日が続きますが、**3月17日(金)**は出校日となっていて**全学年対象の進路別ガイダンス**となっています。1年は2年に向けてそろそろ自分の進路を真剣に考えなければなりませんし、2年は3年に向けていよいよ自分の進路を具体的に決めなければならない重要な時期です。まだ自分の進路がぼんやりしている人も既にしつかりと将来の目標が定まっている人も、この機会を利用してぜひ「自分がなりたい将来像」を再確認し、新年度からはじまる4月から力強く動き出せる力を養ってもらいたい。

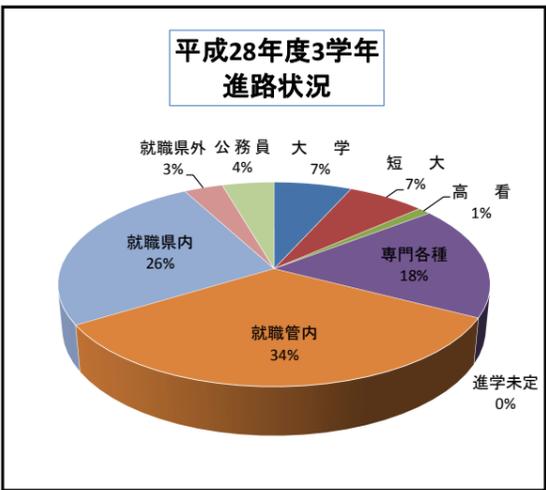
さて今回は、きたる進路別ガイダンスに先立って、今年度の3年生の進路概況を総括しつつ、1・2年生諸君が自分の進路実現に向けて今後どう動くべきか、参考にしていただきたいと思い、ちょっと力を入れて作っちゃいました。

◆平成28年度3学年 進路概況

右の表が今年度の3学年の進路状況です。進学決定29人、就職内定60人で、アルバイトやフリーターなども出ず、全員進路が決定しました。

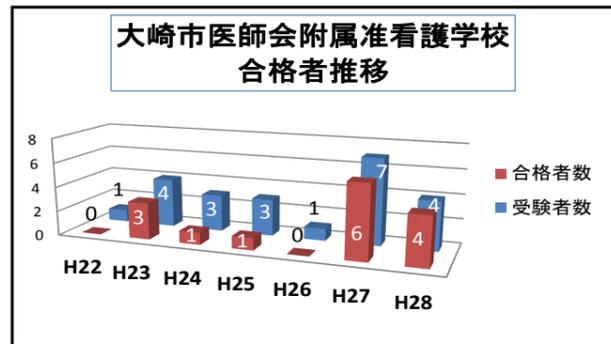
これで4年連続で進路100%達成です(^)v

内訳は、右のグラフの通りです。



◆進学について

今年、各大学、短大、専門学校などでも様々な動きがあった年でした。本校に関わりがあるところでは、東北学院大学の工学部が大幅な学科改編を行い、その関係で指定校枠の見直しがなされました。本校には工学部から2名、他学部から1名の計3名の指定枠があったのですが、長年、工学部への進学希望者が現れなかったためにこの2名の枠がなくなりました。その代わりに他学部が1名増え、計2名の指定枠となりました。地元の誠真短大には、ここ数年連続して本校の生徒が入学し活躍しているということで今年指定枠が3名から4名に増えました。また、今年の4月から新しく葵会仙台看護学校が開校する関係で、指定枠1名をいただきました。看護系では他に石巻赤十字看護学校が今年から新しく推薦入試を導入することになりました。来年度には、仙台赤門短期大学看護学科が新設され、看護師希望者にはまた一つ選択肢が増えることとなります。宮城県は全国的に見ても看護師希望者の数の割に看護師養成学校の数が非常に少ないことで各方面から批判を受けているわけですが、今年の動きもそれに呼応する形なのかとも思われます。新しい看護学校が新設されることで、看護師希望者が多少は分散され倍率が下がるのではないかと期待されます。しかし、現実はそのほど甘くありませんでした。本校からも、どうしても高専に入りたい、と石巻赤十字の推薦や葵会の一般を受験した生徒がいましたが、どれも高倍率の激戦となり、惨敗でした。結局は、1つ2つ学校が増えたところで、宮城県内の看護師希望者の数はその許容範囲を超えており、かなりの学力がなければ宮城県内の高等看護学校には入学できないというのが現状です。



大崎市医師会附属准看護学校 合格者推移

一方、病院で働きながら看護師を目指す就職進学の方では、大崎市医師会附属准看護学校への合格状況は好調でした。例年は40名の定員に対し120名を超す応募者で激戦となっていた大崎准看ですが、昨年度は98名の応募者に本校から7名受験し6名合格。今年度は応募者は89名にまで減り本校から4名受験し4名全員合格できました。応募者が減ったとは言え、2倍強の倍率の中での合格なので十分立派です。

右の表は、過去7年間の大崎准看の合格率と評定平均値の関係を表したもので、合格者の評定と不合格者の評定をまとめてみました。例年の結果から、多少の例外はありますが、おおそ評定平均値4.0が合否の境のように思われます。看護師希望の生徒諸君は、ここらへんをめやすに勉強に取り組んで下さい。

大崎市医師会附属准看護学校 合格者推移

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
受験者数	1	4	3	3	1	7	4
合格者数	0	3	1	1	0	6	4
合格者(評定値)		4.4	4.4	3.5		5.0	4.9
		4.2				4.9	4.8
		4.1				4.3	4.8
						4.2	4.4
不合格者(評定値)	3.5	3.7	4.0	3.5	3.4	3.8	
			3.5	3.4			
合格率	0.0%	75.0%	33.3%	33.3%	0.0%	85.7%	100.0%

◆就職について

右の円グラフは、3年生の就職先を産業別に分類したものです。製造業が41%と最も多くなっています。大崎管内はもともと製造業が盛んな地域なので、これは例年通りではあるのですが、例年では30%前後のところ、今年は40%を超えており傾向がさらに顕著に表れています。

次に多いところで、運輸業と医療福祉業がそれぞれ10%です。運輸業では今年東北センコー運輸が仙台港に新しい拠点を設けた関係で、宮城県全域で大々的な高卒求人が出ました。その関係で、本校からも3名採用されました。医療分野では古川星陵病院を運営している医療法人華桜会が古川稲葉に新しく星陵あすか病院という主に人工透析を中心とした医療施設を今年の5月開設に向けて現在建設中です。こちらも多くの人材が欲しいとのことで昨年度から看護師希望者向けの高卒求人を積極的に出しています。この関係で、今年度本校から4名採用されました。

今年の3年生の顕著な点は、新規事業所への内定が多かったことです。過去岩出山高校と縁がなかった事業所であったり、ここ数年、採用にめぐまれない事業所に数年ぶりに採用されたり、そんな形で、今年の3年生は過去の岩高生ではなかなか行けなかった事業所への内定を勝ち取った生徒も例年よりも多く出ました。

	H28	H27	H26	H25
内定した事業所数	39	44	39	49
新規事業所数	12	7	8	21

岩高の就職状況では平成25年度から内定率100%を維持しているわけですが、平成25年度はある意味特殊な求人状況だったと言えます。平成20年のリーマンショックと平成23年の東日本大震災でダブルパンチをくらった宮城県内の地元事業所からの高卒求人は減少傾向にありました。そこへ復興支援で他県から多くの事業所が参入する形になり、平成25年はようやく軌道に乗り始めた地元事業所の求人と新規参入してきた事業所の求人があいまって求人件数が跳ね上がった年でした。その中で就職活動ということもあり、平成25年は例年になく多くの新規事業所への内定がありました。しかし、この年を除けば、今年の3年生が積極的に新規の事業所を応募したことが窺えます。

では、具体的にどんな事業所に内定できたのか。

久々に採用していただいた事業所と、今年初めて採用していただいた事業所をあげてみます。

【久しぶりに採用していただいた事業所】

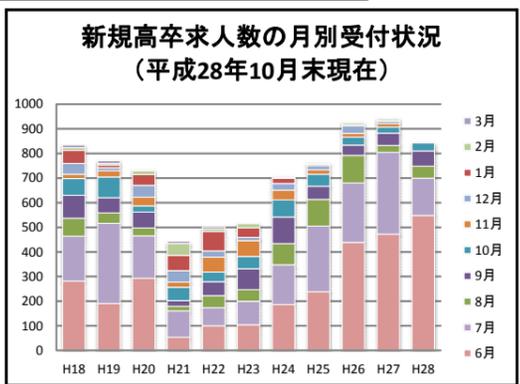
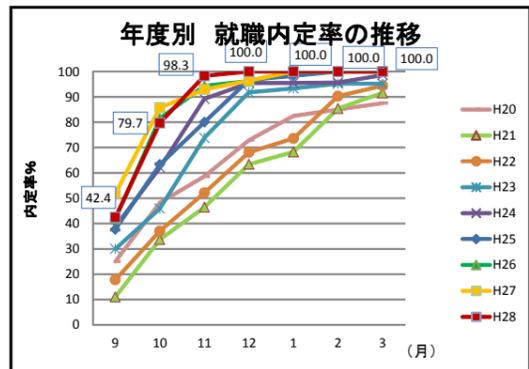
株式会社 東北イノアック (18年以上ぶり)、大崎市役所 行政職 (18年以上ぶり)、株式会社 緒方製作所 (13年ぶり)、株式会社 ピックルスコーポレーション (13年ぶり)、有限会社 パレット (9年ぶり)、ケミコン宮城 株式会社 (6年ぶり)、株式会社 サンエーテック (5年ぶり)、古川エヌ・デー・ケー株式会社 (4年ぶり)、株式会社 北光 (4年ぶり)、株式会社 ハンサム (4年ぶり)、医療法人盛真会 青葉第二歯科 (3年ぶり)、自衛官 一般曹候補生 (8年ぶり)

【今年初めて採用していただいた事業所】

宮城シマダヤ 株式会社、日昌 株式会社 東北工場、株式会社 ピュアスポーツ、有限会社 ジーエル青葉、中央精機東北株式会社、みなみかた歯科医院、株式会社グリーンテック 宮城営業所、株式会社 友美、コカ・コーラ・イーストジャパン株式会社、一般財団法人日本ボディセラピスト協会、株式会社 ショウトク

◇今年度の求人状況をみる

右上のグラフは過去10年間のハローワーク古川が受領した高卒求人の件数を月ごとに色分けしたグラフです。昨年度(H27)はリーマンショック前を上回る過去最高の求人数でした。そのため昨年度採用計画が出遅れたために充足できなかった事業所が多数残り、その事業所が昨年度出遅れた反省をもとに今年度採用計画を前倒ししたため6月の受領件数が過去最高となったようです。しかし、昨年度景気を後押ししていた円安効果やトヨタシエンタの生産量も落ち着きをもどしてきたこともあり、また、建設業界も、依然として東日本大震災の傷跡は深く沿岸部の復興状況は途上に状況であるにも関わらず、他県から新規参入してきた事業所も現在は東京オリンピックに向けて宮城県を撤退しつつあります。こうした状況から、全体的に昨年ほどの求人件数には及びませんでしたが、逆の言い方をすれば、安定期に入ったとも言うこともでき、しばらくはこの程度の求人件数で推移すると思われます。ちなみに大崎管内の高卒の就職希望者は約700人弱ですから職を選ばなければ全員就職できる分の件数は十分にあるという状況です。



◇内定の推移をみる

左の折れ線グラフは、本校3年生の過去9年間の内定状況の月毎の推移グラフです。今年の3年生はスタートがやや不調で9月末での内定率は県平均(46.5%)を下回る42.4%と出遅れましたが、その後の内定スピードは過去

